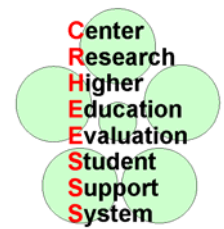


# 週刊センターニュース

No.168



第168号（2007年7月23日）毎週月曜日発行  
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL：[http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 〇●〇 第156回共同学習会のご案内 〇●〇

日時：7月25日（水）14時30分～16時（通常と曜日・時間が異なりますのでご注意ください）

場所：金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ：大学改革と職員の役割－国立大学マネジメント・大学行政管理学会連携記念シンポ参加報告

報告者：渡辺達雄（大学教育開発・支援センター）

趣旨：標記シンポでの内容を踏まえながら、大学運営・変革において職員に求められる役割、機能、能力はどういうものか、参加者と一緒に考えていきたい。

## 〇●〇 国立大学マネジメント・大学行政管理学会連携記念シンポ参加報告 〇●〇

大学経営を支えていく大学職員の資質向上という目的を目指し、私立大学職員で主に構成される大学行政管理学会（会員数約1200名）が1997年に、また主に国立大学職員で構成される国立大学マネジメント研究会（会員数約500名）が2005年に設立されている。置かれた環境や具体的な職務内容が設置者間で異なっていることを反映して、上の二つの会も独自色を出しつつ活動を進めてきたが、教育改善、大学評価、国際交流、リスク管理など共通の課題を抱えている昨今の状況を考慮し、大学の経営・教学改善、改革のあり方について情報交換を行い、プロフェッショナルとしての職員養成を目指し、今年二つの会が協力連携することになった。

6月23日（土）に開催された標記シンポでは、最初に池田輝政氏（名城大副学長）からシンポの趣旨に関わり、基本的な問題提起をされた。大学はビジョンを共有する経営体になっているのか、ということである。教学に焦点を絞ったマネジメント改革や、ミドル、ローア（若手）の各段階でのマネジメント向上の機運はあるように見受けられるものの、大学が何か新しいものを作ろうとしても、コミュニケーション不足が背景にあって、それが思うようにできず機能不全に陥っているとみている。つまり、経営トップマネジメント（理事会）と教学トップマネジメントが共有されてないだけでなく、理事会の方は有効に機能せず、実質的には学部レベルの教学マネジメント（教授会など）に任せて（しかもそれ自体でもっていたということもあるが）、例えばいわゆる中期目標は学部レベルで作成して、共通するものを（継ぎ足して）大学全体の中期目標としているなどの問題があったと指摘している。こうした中で、事務組織は様々な学部・研究科をつなぎ合わせ、相乗効果を生むような役割を果たして、教職員がミッションを共有し、「共働」していくことが重要であると主張した。

福島一政氏（日本福祉大常務理事、大学行政管理学会会長）は、2003年に当該学会研究グループが実施した調査をもとに、大学職員の現状とその分析結果をもとにした見通しを述べられた。調査によると、理事長・学長の意識として大学経営において強化したい事に、設置者を問わず、教育の質、経営機能、財務体質が上位3つに挙がり、そのための教職共働を進めるにあたっての課題は、職員の専門性向上や危機感の共有、があると考えている。プロフェッショナルな職員に求める能力として、①コ

コミュニケーション能力②戦略的プランニング能力③政策実現のためのマネジメント能力④価値創造能力⑤複数業務領域にわたる広い知見⑥教職員・学生から信頼される人格と教養⑦使命感と勇気⑧ミッションを堅持しビジョンを提案できる能力⑨人材育成能力⑩プレゼンテーション能力、などを挙げている。また主要な職員業務の変化の方向についても触れ、例えば財務では「金庫番から羅針盤へ」、学務・教務では「学籍管理から教育マネジメントと学習支援へ」といったように、職員の意識の変化が必須と述べ、今後新たに業務開発が必要であると考えられるものに、フィールドワーク・コーディネーター、インストラクショナル・デザイナー、研究コーディネーター・マネージャー、学生生活支援ソーシャルワーカー、インスティテューショナル・リサーチャーなどを挙げている。

大学行政管理学会は、国立大学マネジメント研究会と協力して、それぞれ主催する研究交流会への相互参加、セミナーの共同開催、トレーニング・プログラムの共同研究開発などを通じて、各業務領域の経験知の理論化・体系化、プロフェッショナルな職員像の提示、大学教育力強化のために教育マネジメント能力と手法の開発を図ることを目指しており、今後の動向が注目される。

絹川正吉氏（国際基督教大前学長）の報告では、ユニバーサル化時代における現代の学生像（問題群）を基礎に、教育組織としての大学におけるスタッフ機能について、複数の観点から持論を展開されたが、その中で特色GPの実施委員長の経験から、特色のある教育プログラムの取組を行っている大学では、スタッフによる十分な組織的支援があり、（むしろ）スタッフが教員を動員して企画・立案・実施するなど、中心になって教育プログラム成立の基盤となっていることを指摘された。またコンピテンシー論やジェネリックスキル論に関する近年の議論を踏まえて、大学教育のアウトカム（成果）が学問的知識・スキルなど認識的なものだけでなく情緒的な領域に拡大しつつあることで、教員だけでは対応できない部分が増えて、そのような課題を担う人材として、ジェネラルスタッフとは別に、スタッフ機能としての学術専門職（アカデミックスタッフ＝教育者としての職員像）の創造が求められていると述べ、非常に興味深く感じられた。（文責：評価システム研究部門 渡辺達雄）

### ○●○ 高等教育に関連する学会・セミナー情報 ○●○

- ・8月7日（火）10:00－17:30 国際シンポジウム「高等教育の市場化における大学団体の役割」

講演者：ウィリアム・ロック（英国オープンユニバーシティ高等教育研究情報センター）、

シンポジスト：小出秀文（日本私立大学協会事務局長）、鈴木典比古（大学基準協会大学評価委員会委員長、国際基督教大学学長）、佐々木雄太（公立大学協会会長、愛知県立大学学長）、赤岩英夫（国立大学協会専務理事）、白井克彦（日本私立大学連盟副会長、早稲田大総長）

会場：サピアタワー10F 東北大学会議場（東京都千代田区丸の内1丁目、東京駅日本橋口）

申込先：東北大学高等教育開発推進センター 022-795-7647 center@he.tohoku.ac.jp

※詳細は、<http://www.he.tohoku.ac.jp/center/2007symposium/2007symposium0807.pdf>を参照

- ・8月8日（水）13:00～17:00 「学生相談およびキャリア支援体制をどう充実させるか」（東北大学高等教育開発推進センター）

報告者：トーマス・バーナム（U.C.アーバインカウンセリングセンター長）、ゲイル・ルーニー（イリノイ大キャリアセンター長）、吉武清實（東北大学生相談所）、千葉政典（東北大キャリア支援センター）、末松和子（東北大経済学研究科）

会場：仙台国際センター2F大会議室

申込・問い合わせ先：022-795-7551、life-career@he.tohoku.ac.jp

※詳細は、<http://www.he.tohoku.ac.jp/center/2007project/2007project0808.pdf> を参照